信濃毎日新聞　2025年8月2日

数学五輪世界1位 松本深志高3年・狩野さん

満点の喜び胸に さらに上へ

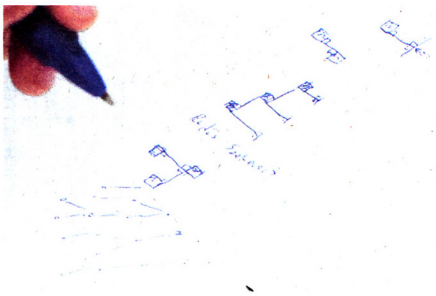
オーストラリアで開かれた高校生以下の「国際数学オリンピック（IMO）」で満点を取り、世界1位の快挙を成し遂げた松本深志高校3年の狩野慧志（さとし）さん(17)＝松本市＝が1日までに、信濃毎日新聞のインタビューに応じ「自信はあったけれど（結果は）出題内容にも関わる。満点を取れたのはうれしい」と語った。IMOでは各国代表と競い合い「自分よりも数学が強い人がいる」と実感、さらに高いレベルに挑む。

国際数学オリンピックで満点を取った喜びを語る狩野さん

コンテストは7月15、16日に開催された。今年は110の国・地域から総勢630人の精鋭が参加。問題は代数、組み合わせ、幾何、整数論の各分野から出題され、IMOの出場者は各日4時間半で3問ずつの計6問に挑んだ。

IMOで最も難しいとされるのは2日目の第6問。狩野さんにとって得意の組み合わせの分野から出題された。解答の方針は早めに思いついたが、答案が長くなり、書き終えたのは終了約10分前。「焦ったけれど、目の前の問題を解くことに100％集中できた」と振り返った。

コンテストの2日後、IMOの関係者から満点を知らされた。ずっと目標としてきた満点へのプレッシャーを感じており「達成感と安心感がミックスされた気持ち」になったという。周りにいた日本代表の仲間から「おめでとう」と祝福された。



第6問を解くためのアイデアを再現して記した図

夢は学者 今夏は大学レベルの学びも

狩野さんのIMO出場は3年連続。上位12分の1の成績上位者に贈られる金メダルは昨年のIMOに続き、2年連続での獲得となった。閉会式では、多彩な業績を残している数学者のテレンス・タオさん（米カリフォルニア大ロサンゼルス校教授）から金メダルを首に掛けられ「ウェルダン（よくできた）」と言われたという。

IMOは今回の出場が最後で「もう出ることはない」と寂しそうな狩野さん。今後は受験生として東京大への進学を目指す。近く山梨県北杜市で開かれる夏季セミナーに参加し、大学レベルの数学を学ぶ予定。将来は数学者を目指しており「組み合わせの分野を研究したい」と話す。

今年のIMOは5人が満点を獲得した。数学オリンピック財団（東京）によると、日本人の満点は2022年以来で狩野さんは5人目。日本の成績は、金メダルが狩野さんを含む3人、銀メダルが2人、銅メダルが1人（金、銀、銅が授与される割合は1対2対3）だった。国別では中国、米国、韓国に次ぐ4位。